

環境への配慮

http://www.nichirei.co.jp/corpo/env/env2011/env/env_01.html ホーム > CSRレポート2011 > 環境のために

● 環境方針

ニチレイグループでは、グループ環境方針を策定し、3つの重点課題に取り組んでいます。

[Web 環境方針全文](#)

■ 2010年度取り組み状況

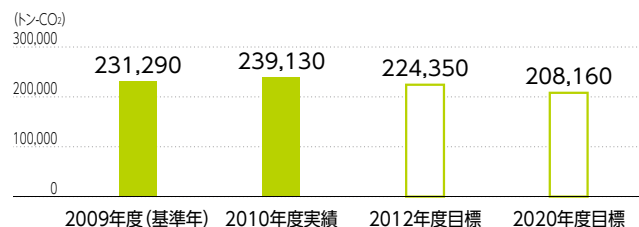
Ⅰ 課題1：地球温暖化防止

気候変動の影響を大きく受ける“食”に関わる企業グループとして工場や物流センターなどの事業所から直接排出されるCO₂の削減に取り組むとともに、事業内容との関わりを考えながら各事業会社が重点課題を設定し、サプライチェーン全体でのCO₂削減に取り組んでいます。

Ⅰ 主な活動

- 調 達：牛のメタンガス排出抑制
- 食 品 工 場：廃熱の再利用、高効率設備の導入
- 物流センター：新規建設センターのLED照明（東扇島物流センター）・自然冷媒（福岡東浜物流センター）への転換
- オ フ ィ ス：パソコンの省エネモードへの設定、電気自動車の導入
- 物 流：物流拠点の集約化による物流効率化
- 商 品：包装資材の軽量化と再生資源の活用
- そ の 他：LC（ライフサイクル）-CO₂の把握

■ グループCO₂総排出量の推移



※ 震災の影響で2010年度データの一部に欠落あり(2009年度の総排出量の0.1%相当)。
 ※ 2009年度データについては、データ収集のシステム導入に当たり一部データの修正があり、昨年度報告値と若干異なる。
 ※ 上記は、CO₂排出のための算出係数を2009年度に固定した場合(グループ目標管理は固定で実施)。地球温暖化対策の推進に関する法律に基づき算出した場合は3%減となる。
 ※ 上記増加分のうち約6,300トンが事業所の増加や生産量の増加に起因すると推定される。

特に、食品工場については、生産トン当たりのエネルギー起源CO₂排出量を1999年度比15%削減という目標を掲げ、太陽光発電、LED照明など新たな省エネ設備導入や既存設備の改修時のより高効率設備への転換、熱回収によるエネルギー再利用などとともに作業方法の見直し、ラインの改善などによる節電や節水などを実施してまいりました。

自らの事業所から排出するCO₂については、新たに定めたグループ総量削減目標達成に向け取り組みを強化していきます。

Ⅰ 新たな目標

- グループ(国内)のエネルギー起源CO₂排出量
 2020年度：2009年度実績比 10%削減
 2012年度： // 3%削減(左下グラフ参照)

Ⅰ 課題2：持続可能な資源循環の推進

限られた地球上の資源をできるだけ継続的に利用していくため、サプライチェーン全体での廃棄物の発生抑制、再利用、再資源化に取り組んでいます。また、“地球からの恵みである生物資源を効率的に無駄なく使うこと、使い切ることができなかったものも飼料や肥料などに再利用し循環させていくことにも注力しています。

Ⅰ 主な活動

- 米100%フライ用衣材の開発
- ニチレイフレッシュファームにおける飼料米活用拡大

Ⅰ 新たな目標

- 食品工場、物流センターから排出される廃棄物についてはリサイクル率99%の達成・維持を目標としています。
 2010年度実績：リサイクル率99.6%

Web ホームページでは、さらに下記の情報を掲載しております

- ▶ 2020年度に向けた目標と重点課題 ▶ 中期目標 ▶ 2010年度実績 ▶ 環境マネジメント体制 ▶ ISO14001などの認証取得 ▶ 環境監査 ▶ 環境会計
- ▶ 環境社内教育(CSRレポート説明会、エコロジー委員会活動報告会の開催、環境展示会、他) ▶ 自然や地域と共生した持続可能なえびの調達
- ▶ 絶滅危惧種 アツモリソウ再生プロジェクトへの参画

Ⅰ 課題3：自然との共生

ニチレイグループの事業は、豊かな地球からの恵みによって成り立っており、これは自然界の多様な生態系や生物種などによって維持されています。これまでも地球温暖化防止や資源循環の推進とともに、自然保護活動団体支援など自然との共生に努めてきました。

2010年度は、生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)が名古屋で開催され、生態系保全の重要性が一層高まるなか、ニチレイグループとしてその重要性を再認識し、さらに取り組みを強化していくため、新たにグループ生物多様性方針を策定しました。

Ⅰ 主な活動

- 自然や地域と共生した持続可能なえびの調達
- 絶滅危惧種アツモリソウ再生プロジェクトへの参画
- 生物多様性をテーマとする啓発活動実施
- 各地域における自然保護活動への継続参加、支援

※ 課題1、課題2の活動と重複するものを除く

生物多様性方針

生物多様性は、生きものが存続していくための基盤であり、未来に引き継いでいかなければならない大切な財産です。

私たちの事業は、生物多様性から生み出される多くの恩恵で成り立っていますが、一方でさまざまな影響を与えています。この認識のもと、事業活動による生物多様性への影響を把握し、ステークホルダーの皆様と連携・協働しながら、保全及び持続可能な利用に継続的に取り組んでいきます。

1. 原材料調達においては、お取引先と連携・協働し、持続可能な利用に配慮して生産、漁獲等された素材やその加工品の調達に積極的に努めます。
2. 事業活動に関わる生物資源は、できる限り商品として皆様に提供するとともに、肥料、飼料、エネルギー等への資源循環に心がけ、社会のために最大限活かすよう努めます。
3. 省エネルギー、省資源、3R(Reduce, Reuse, Recycle)、グリーン調達、有害化学物質対策等により持続的な発展が可能な社会づくりを推進し、生物多様性に影響を与える環境負荷の低減に努めます。
4. 自社施設、所有地及びその周辺、原材料調達先の周辺において、生物多様性保全や復元に寄与する活動に努めます。
5. 環境啓発活動、情報発信などを通じて、生物多様性を育む社会づくりに貢献します。

地球のいのち、つないでいこう



ニチレイは生物多様性民間参画パートナーシップに参加しています

マテリアルバランス

INPUT

原材料

126千トン

原料	112千トン
包装資材	14千トン

エネルギー

5,168千GJ

購入電力	459,665千kWh	LPG	2,843トン
重油	5,342kℓ	ガソリン(社有車)	671kℓ
灯油	1,932kℓ	軽油(社有車)	1,586kℓ
都市ガス	3,851千m ³	太陽光発電	300千kWh

水

3,597千m³

上水	1,153千m ³
工業用水	654千m ³
地下水(井水)	1,791千m ³

OUTPUT

廃棄物

事業所外排出量	33.9千トン
リサイクル量	33.8千トン
最終処分廃棄物量 ^{※1}	0.1千トン

※1 事業所外に排出される廃棄物のうち、直接処分場に埋め立てられる廃棄物およびエネルギー利用などがなく単純焼却される廃棄物の量。

大気系

CO ₂ ^{※2}	239,130トン-CO ₂
SOx ^{※3}	25トン

※2 地球温暖化対策の推進に関する法律に基づき算出。グループ総量目標については基準年(2009年度)排出係数固定で管理。
 ※3 測定実施のばい煙発生施設。車両由来含まず。

水系

排水	2,254千m ³	排水負荷量	
下水道	1,420千m ³	BOD ^{※4}	29トン
公共水域(河川等)	834千m ³	COD ^{※4}	10トン

※4 排水濃度測定を実施している場合のみ排出量を算出。

※ 対象事業所はWebに掲載しています。